

## 令和元年度大気中のダイオキシン類の調査結果について

### 1 採取日

令和2年2月7日(金)から令和2年2月14日(金)までの連続7日間

### 2 採取地点

- ・ 亀沢のぞみの家(墨田区亀沢四丁目18番11号)
- ・ すみだ土木事務所(墨田区八広六丁目35番1号)

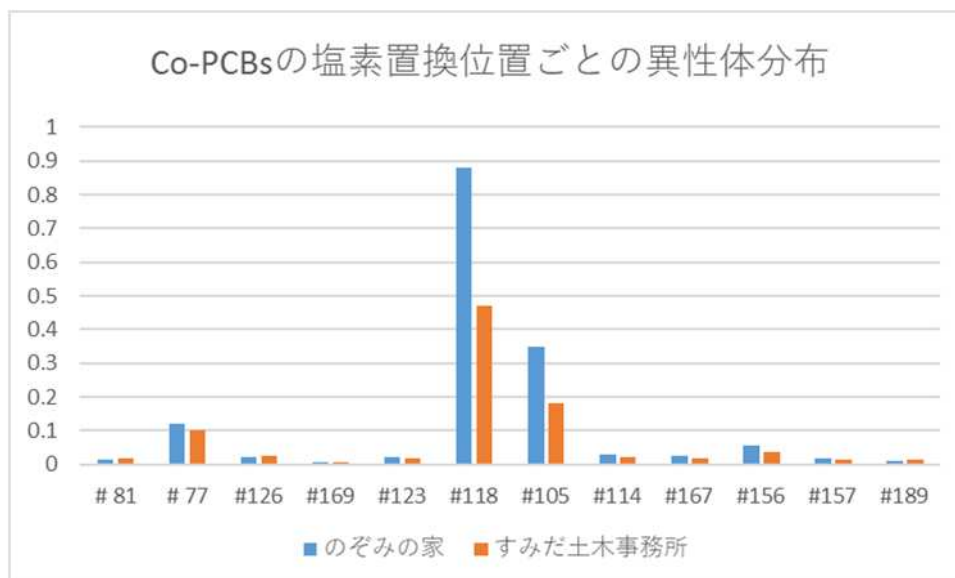
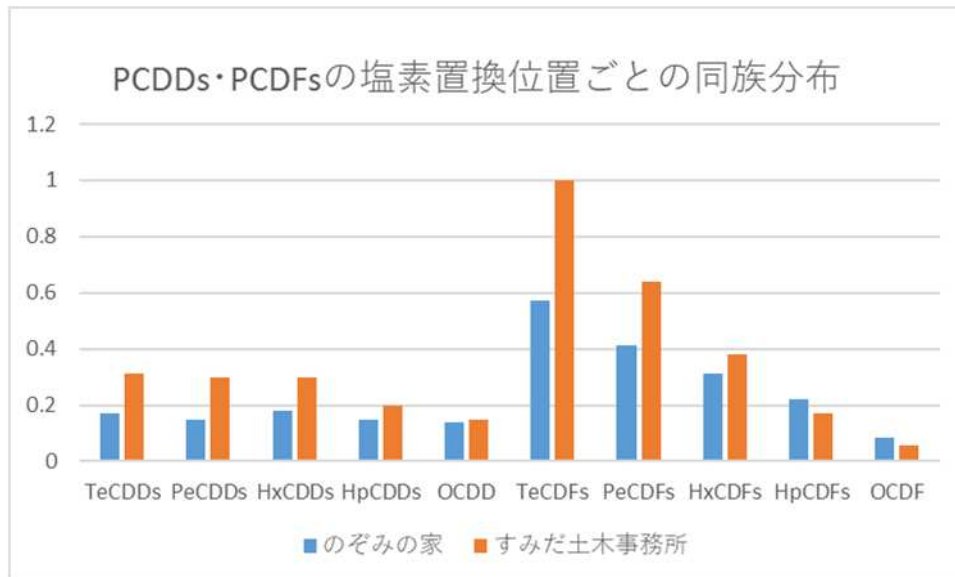
### 3 測定結果

#### (1) ダイオキシン類毒性等量

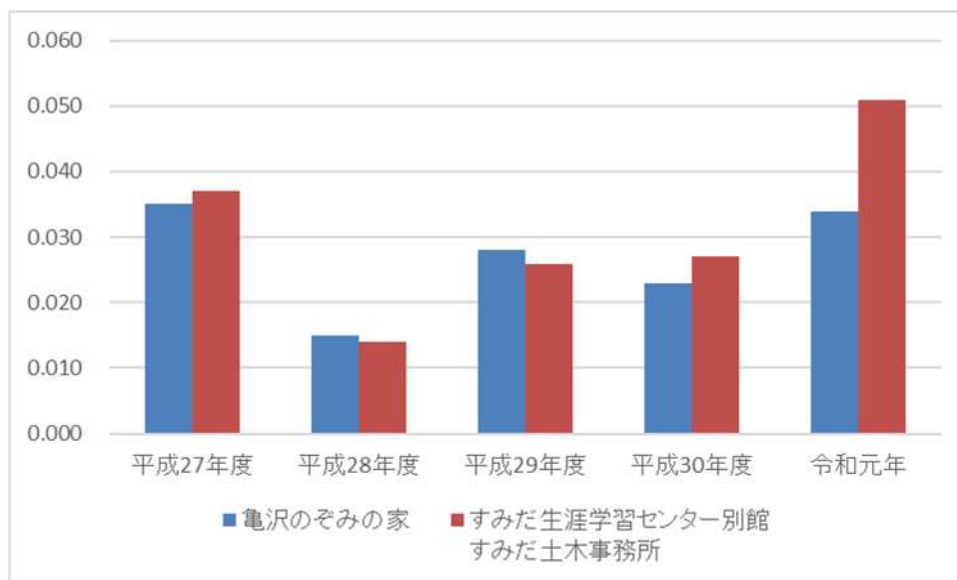
採取地点	ダイオキシン類毒性等量
亀沢のぞみの家	0.034 pg-TEQ/m <sup>3</sup>
すみだ土木事務所	0.051 pg-TEQ/m <sup>3</sup>
環境基準(年平均値)	0.6 pg-TEQ/m <sup>3</sup> 以下

(参考) 平成30年度都内調査結果平均値: 0.019 pg-TEQ/m<sup>3</sup>

#### (2) 組成



#### 4 経年変化



#### 5 まとめ

ダイオキシン類毒性等量は、環境基準を大きく下回っていた。

ダイオキシン類の組成をみると2地点に共通して、PCDDs・PCDFsではTeCDFsの濃度が、Co-PCBsでは#118の濃度が高い傾向にあった。

PCDDs・PCDFsではすべての同族体が検出され、TeCDFsの濃度が高かった。Co-PCBでは#118及び#105の濃度が高かった。

これらの結果と参考資料（「ダイオキシン類の組成分布を用いた発生源の推定」）を比較すると、焼却系発生源におけるPCDDs・PCDFs同族体組成分布と類似した傾向であった。